



YAMADA KAZU

山田 和展

記憶のカケラ
もう一度出会うこと

2024.4.21^{SUN}-6.23^{SUN}

【開館日】水・木・土・日曜日 11:00~16:00(入館は15:30まで) 【休館日】月・火・金曜日 入場無料

【会場】緑ヶ丘美術館・別館→〒630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘1426-38 [URL] <http://mam-museum.com>

〈お問い合わせはFAXで:FAX 0743-85-7879〉

MAM-ANNEX
Midorigaoka Art Museum
緑ヶ丘 美術館・別館

山田 和展

記憶のカケラ もう一度出会うこと

見る人の潜在意識に語りかける、自由な創作世界がそこにある

オブジェと茶盤、現代アートと伝統工芸。

山田和の作品は、双方の枠を軽々と凌駕する圧倒的な存在感を放つ。

目と心に留まった古道具や廃物に人形や器を組み合わせ、

独特の世界観を醸し出すアッサンブラージュ。時計の中、カメラの横から視線を投げてくる、可愛らしく、ちょっと不気味な人形たち。ある者は笑い、ある者は驚きの表情を浮かべて見る人に何事かを語りかける。

まるで「置き忘れた記憶のカケラを呼び起こしてあげるよ」とでも言うように。

一方で、別人の手かと思える器がある。

若かりし頃に加藤唐九郎のもとで培った器づくり、志野茶盤を焼く確固たる技術。鉄分を多く含む越前の陶土の特性を生かしつつ、自らの個性と自由な発想を組み合わせて生み出した炎舞志野や赫釉織部。これらすべてが「山田和の世界」だ。

また今回は、この場でしか見られない最新のアッサンブラージュ作品も展示。

「山田和の現在」を知る貴重な機会となっている。

ジャンルの垣根を飛び越えた無二の

作品たちを、どうぞご高覧ください。



アッサンブラージュ「メモリーズクロックB」



赫釉織部茶盤・人形

YAMADA KAZU



山田 和(やまだ かず) 略歴<プロフィール>

- 1954 常滑に生まれる
- 1976 大阪芸術大学卒業
- 越前に築窯
- 1978 サン・ギャラリー住意にて個展
- 1980 丸栄スカイビルにて個展(以後隔年開催、2012年まで)
- 1983 南青山グリーン・ギャラリーにて個展(以後隔年開催、1993年まで)
- 1988 ドイツにて穴窯制作(ヤン・コルヴィッツ陶房)
記録映画「炎より生れる」制作に参加
(マークス・ツェルナーブロダクション)
- 1989 ドイツにて作品制作、初窯
- 1993 日本橋三越本店にて個展(以後隨時開催)
- 1994 大阪高島屋にて個展(1997/2000年)
- 1995 赤坂グリーン・ギャラリーにて個展
- 1996 ギャラリー堂島にて個展(以後隔年開催、2010年まで)
ぎゃらりい栗木にて個展(以後隨時開催)
- 2000 藤野屋にて個展(以後隨時開催)
- 2001 橋本美術にて個展(以後隨時開催)
- 2003 銀座黒田陶苑にて個展(以後隨時開催)
文錦堂にて個展(以後随时開催)
- 2006 ギャラリーCEPICAにて個展(以後隔年開催)
- 2008 ギャラリーヴォイス「茶陶—造形と意匠にみる現在性」出品
- 2010 東京国立近代美術館工芸館
「茶事をめぐって—現代工芸への視点」出品
福岡3越にて個展(以後隔年開催)
- 2011 大阪JR三越伊勢丹にて個展(以後隔年開催、2013年まで)
- 2013 福井県陶芸館企画「山田 和」展
西武福井店にて個展
- 2015 松坂屋名古屋店にて個展(以後隨時開催)
- 2016 阪急うめだ本店にて個展(以後隨時開催)
- 2018 「パラミタ陶芸大賞展」出品
- 2019 館・游彩「山田 和 人形の世界」展
短編映画制作「赤い帽子の少年」You Tube
- 2021 赫釉織部茶碗、炎舞志野茶碗が
ヴィクトリア&アルバート博物館に収蔵
- 2022 福井県陶芸館「いにえの陶工とあそぶ—桃山デザイナー」出品



黒炎舞志野茶盤

空海志野茶盤

無地志野茶盤

●アクセス:〈地下鉄中央線・近鉄けいはんな線〉または〈近鉄生駒線〉〈近鉄奈良線〉
で「生駒駅」下車。生駒駅「南口1番のりば」より奈良交通バス『中菜畑二丁目行き』
乗車→『新旭ヶ丘バス停』下車、徒歩すぐ。

